１．会社概要（基本情報）

会社名	**Metalith Capital Group 株式会社**	
所在地	住所	〒105-6415 東京都港区虎ノ門一丁目17番1号虎ノ門ヒルズビジネスタワー15階
	電話	03-6206-7437
	ＨＰアドレス	https://metalithcapital.com
代表者	吉田 修久	
金融商品取引業登録番号	関東財務局長（金商）第3482号	
登録年月日	2025年8月6日	
協会会員番号	012-03114	
業務開始年月	2025年11月	
資本金	0.45億円	
受付窓口	金本 頌子 (COO)	
電話	03-6206-7437	
E-mail アドレス	shoko.kanamoto@metalithcapital.com	

２．運用の特色（投資哲学、運用スタイル等）

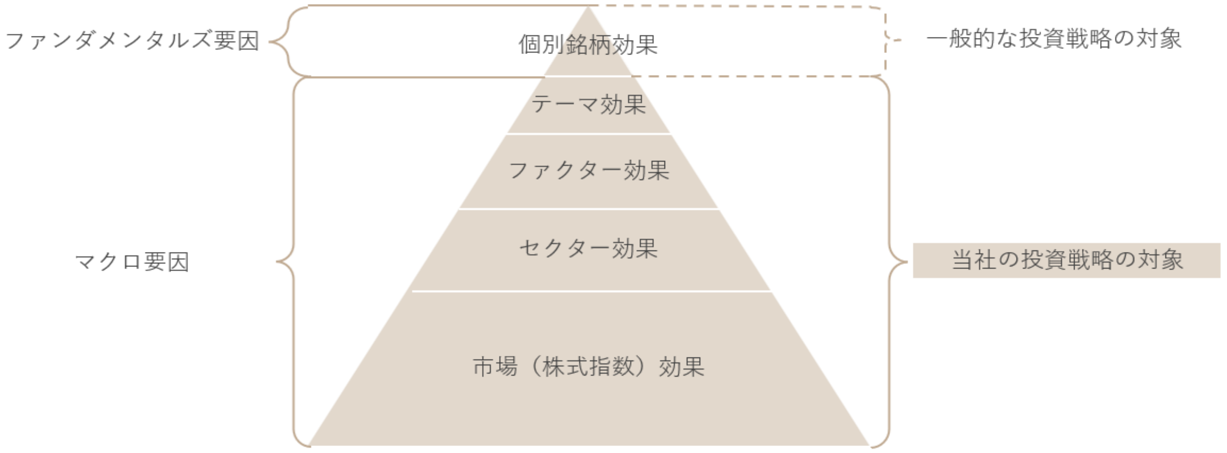
Metalith Capital Group株式会社は、日本株式を対象としたマクロ戦略によるロング・ショート運用を行っています。

当社の投資哲学および投資収益の源泉は下記の通りです。
詳細については後段の７．アピールポイントや、当社ホームページをご参照ください。

投資哲学
株式における一般的な運用戦略が対象としていない価格変動要素を収益の源泉とすることで、既存の運用戦略とは異なるリターン・プロファイルを持った投資機会を提供すること。

投資収益の源泉
・マクロ的な投資テーマから生じるテーマ・アルファ
・日本株式とグローバル市場の間に生じるリアクション・タイムラグ効果

参考：個別株式のリターン分解および当社戦略の対象



３．投資に関する意思決定プロセス

当社の投資運用は、独自のプロセスで組成された個別銘柄のバスケットポジションを通じて
ポートフォリオを構成し、市場動向に応じて各ポジションを調整する体制をとっています。

投資におけるすべての意思決定をCIOが行うシングルCIOモデルを採用しており、
ポートフォリオマネージャーおよびトレーダーが実際のポートフォリオの構築および
市場取引を行います。

全体としての意思決定プロセスは下記の通りです。

1. 市場環境の認識

世界各国のマクロ経済動向、クロスアセット市場動向を踏まえ、市場全体の環境を定義します。
この過程においては、グローバルの株式や債券市場のほかに、為替市場、クレジット資産、
コモディティ、仮想通貨、ボラティリティなど、幅広い資産クラスをカバーして総合的な判断を
行います。

2. テーマおよび取引機会の設定

市場環境に適したマクロ的な投資テーマおよび、グローバル金融市場と日本株式市場の間に
おける裁定が可能な取引機会を設定します。

3. バスケットポジションの構成

投資テーマおよび裁定機会を収益化するための個別銘柄バスケットを、自社プロセスを通じて
作成します。この過程では、自社モデルによるファクタースクリーニングや、クオンタメンタ
ル分析を活用します。

4. ポジションウェイトの決定

各バスケットポジションのリスク特性や現市場環境との親和性を考慮して、ポジション
ウェイトを決定します。当社では各ポジションごとにドローダウン基準の損益管理を実施して
おり、この基準に抵触したポジションを素早く解消することで、ポートフォリオ全体の損失が
拡大するリスクの抑制を図ります。

5. ポートフォリオのリスク管理

自社のファクターモデルを通じて、ポートフォリオのリスクファクターを厳格に管理しています。
特定のファクターおよびリスク要因に傾斜が発生した場合は、クオンツ手法を用いて、これを
相殺するバスケットポジションを設定して、ポートフォリオにおける意図しないリスク要因の
抑制を図ります。

４．運用体制

当社の運用体制は、運用部門、オペレーション部門、コンプライアンス部門が相互に独立性を保ちながら連携する体制となっています。

運用判断および発注業務は運用部門が担い、運用判断については代表取締役兼CIOである吉田が統括しております。発注業務については運用判断者とは別のトレーディング責任者が行うようにして、執行の質を担保するようにしております。これらの担当者はいずれも13年以上の投資運用経験を有しています。

オペレーション部門においてはCOO金本を責任者として、取引管理、リスクモニタリング、報告業務等を行い、運用業務が適切かつ円滑に遂行される体制を整えています。

これらの運用業務、オペレーション業務にかかる法令遵守および内部監理については、各部門から独立したコンプライアンス部門が担当し、各種取引執行からトレーディング後のオペレーション業務に亘って、日常的なモニタリングを実施しています。

これらの体制により、投資判断の迅速性と内部監理の実効性を両立する運用体制を構築しています。

５．運用金額

当社では2025年11月の運用開始以降、主に国内及び海外機関投資家のファンド(SMA)を通じて、投資一任契約に基づき投資残高を順次拡大しております。残高の実額は非開示としておりますが、投資家様からのニーズや市場環境を踏まえ、段階的かつ安定的な拡大を目指してまいります。

また、2026年中にコミングルファンドであるMetalith Japan Macro Equity Fundの運用開始を予定しています。

6．運用実績

当社の運用戦略における目標リターンは15%、目標リスクは年間8%としております。

当社は2025年11月に業務を開始した比較的新しい運用会社であり、現在は運用実績の積み上げ段階にあります。また、当社ではこの実運用の開始に先立ち、2024年8月より同戦略による仮想ポートフォリオ運用（シミュレーション）を行ってきました。これらの結果を含めた、運用戦略に関する参考パフォーマンスは下記の通りです。なお過去の実績は将来の運用成果を保証するものではありません。

参考パフォーマンス※1（売買コストを含む、運用報酬※2控除前のリターン）

								←仮想ポートフォリオ運用パフォーマンス→					
2024	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
ポートフォリオ損益(取引コスト控除後)								＋5.09%	＋3.86%	－1.05%	＋4.68%	－1.28%	＋11.30%
平均グロス・エクスポージャー								＋195%	＋204%	＋244%	＋225%	＋194%	＋230%
平均ネット・エクスポージャー								＋6.7%	＋11.8%	－2.9%	－18.3%	＋1.6%	－0.5%

	←仮想ポートフォリオ運用パフォーマンス→									←ライブ運用参考パフォーマンス→		
2025	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来※3
ポートフォリオ損益(取引コスト控除後)	＋0.69%	＋0.64%	＋1.97%	＋1.92%	＋3.89%	＋3.13%	＋0.27%	＋3.64%	＋0.04%	＋2.33%	＋2.02%		＋20.53%
平均グロス・エクスポージャー	＋206%	＋233%	＋262%	＋226%	＋256%	＋280%	＋262%	＋264%	＋273%	＋254%	＋257%		＋257%
平均ネット・エクスポージャー	＋11.3%	＋1.3%	＋4.0%	＋6.3%	＋5.8%	－2.6%	＋18.3%	＋4.7%	＋12.6%	＋5.5%	＋5.8%		＋6.6%

	2024	2025※3	設定来※3
リターン(年換算後)	＋27.44%	＋23.23%	＋24.57%
リスク(年換算後)	＋7.61%	＋8.75%	＋8.39%
シャープレシオ	3.60	2.65	2.93

	2025/11-	設定来※3
ポートフォリオ損益(想定コスト控除後)	＋2.02%	＋31.84%
平均グロス・エクスポージャー	＋257%	＋248%
平均ネット・エクスポージャー	＋5.8%	＋4.4%

※1 参考パフォーマンスは当社運用を代表する数値として、速報性を重視して計算された数値です。実際の運用パフォーマンスは、口座毎の投資タイミングやオペレーション事由により、この数値と異なる可能性があります。

※2 コミングルファンドの運用報酬は、年間管理手数料 2.0%、成果報酬 20%を予定しています。

※3 仮想ポートフォリオ運用パフォーマンスを含む推計値

７．アピールポイント

当社は経営理念として、「投資運用における経験的価値の最大化」を掲げています。このことは、一般的なファンド評価の指標とされる投資リターンの数値にとどまらず、投資家の方々がファンドに投資する上での経験自体を最良のものとするという当社の意思を示しています。

具体的には、単純に良好なリターンを提供するだけでなく、オルタナティブ投資の本質である「マーケットにおける十分に評価されていない収益機会へのアクセスを提供する」ことや、投資視点や運用状況の共有を通じて「投資家の方々とのコミュニケーションをより良いものにする」点にフォーカスしています。詳しくは当社ホームページ（https://metalithcapital.com/）をご参照いただけますと幸いです。

当社の運用戦略における特徴は下記のとおりです。
仮想ポートフォリオ運用を含めた過去のトラックレコードからは、市場が急落・急騰するなど、ボラティリティが高まる期間においてリターンを獲得しやすいという傾向があります。

１．一般的な運用戦略とは異なる、マクロファクターを中心とした投資収益の源泉

ファクター効果やセクター効果、株式市場の変動といった、一般的なファンダメンタルズ戦略が対象としていない価格変動要素を収益の対象としているため、混雑したポジションに起因するシステミックなドローダウンリスクや、競合過多によるアルファリターンの希薄化の影響を受けにくい投資戦略となっています。

２．流動性の高い大型株を中心とした投資戦略

株価の変動要因のうち、ファンダメンタルズ要因の影響が小さい大型株を投資対象とすることができる戦略であるため、流動性に起因するリスクが抑制されている点や、一般的な投資戦略では獲得が困難な、比較的短期の市場変動を収益機会とすることができる点に特徴があります。

３．ファクター/ドローダウンベースの綿密なリスク管理

当社のリスク管理は、自社のクオンツファクターモデルを用いていることと、バスケット毎のドローダウン損益管理を採用している点に特色があります。これらのリスク管理体制によりポートフォリオのリスク・エクスポージャーを正確に把握した上で、損失の原因となるエクスポージャーを機動的に管理することで、ポートフォリオ全体のドローダウンリスクの抑制を図っています。

以上、最後まで閲覧いただきまして、誠にありがとうございました。本稿が投資家の方々にとって、当社との良いご縁となれば大変幸いです。ご関心をいただけましたら、当社窓口のCOO金本までぜひお気軽にご連絡ください。どうぞよろしくお願いします。